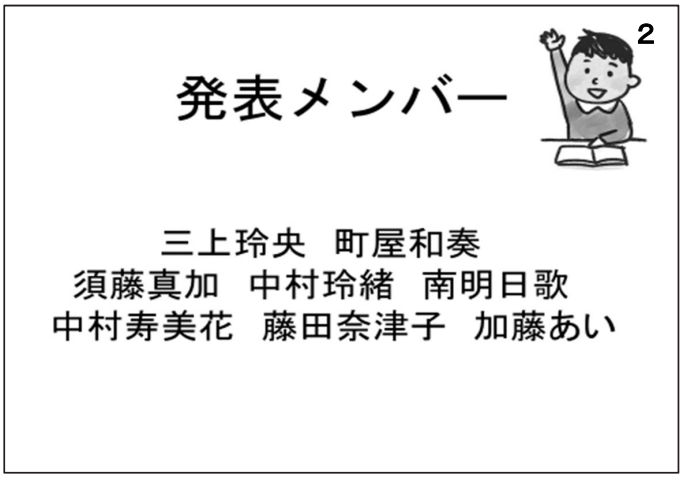
青森県立青森西高等学校

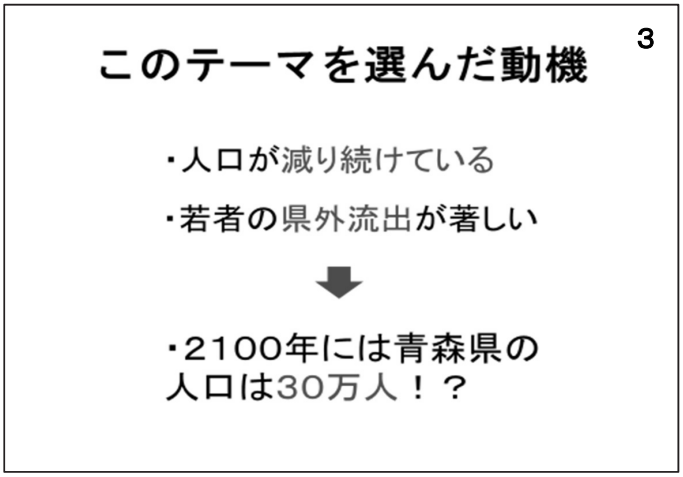
「人口増加大作戦」

第1回高校生模擬議会参加　青森県立青森西高等学校　平成29年2月9日(木)

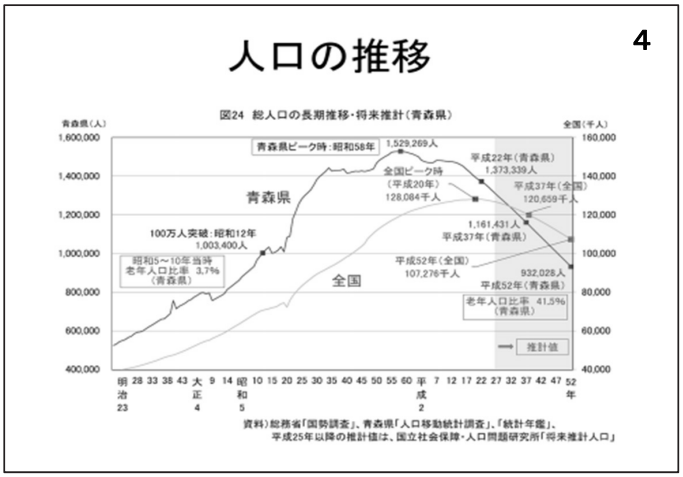
私たちの発表テーマは「青森県の人口増加大作戦」です。（１）



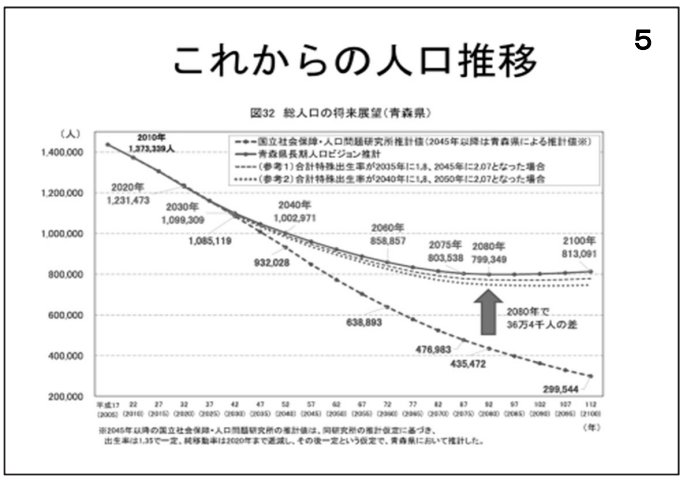
私たちがこの発表テーマを選んだ理由は、青森県の人口が減り続けてきていることと、若者の県外流出により青森県の人口が 2100 年には 30 万人になってしまうということを知り、このままの状態を放っておくと青森県はどうなってしまうのだろうかという危機感を持ったからです。（３）

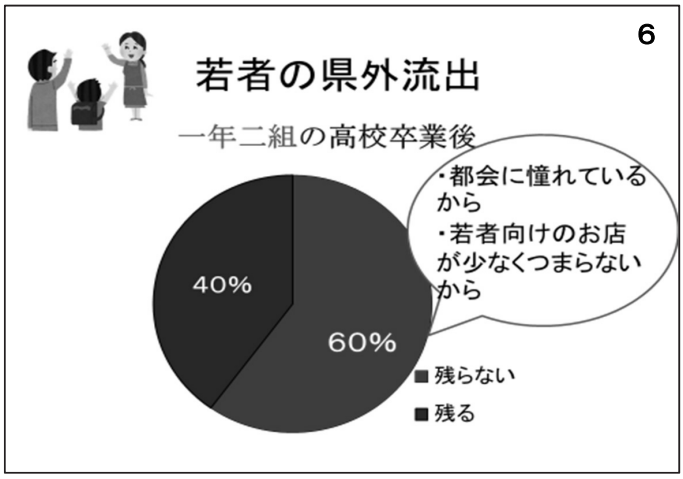


次のグラフは青森県の人口の推移を示しているものです。青森県の人口は 1985 年の 152 万 9 千人をピークに 2015 年まで、30 年で 20 万人以上減少しています。何も対策を行わなければ、本当に 2100 年には人口は 30 万人まで減少してしまいます。今の青森県の人口は約 130 万人で今後 30 万人まで減少すると約４分の１になるということです。（４）



例えてみると、青森西高等学校全校生徒は 720 人ほどいます。それが４分の１になると 180 人になるということです。720 人から 180 人だと、どれだけ少なくなるということがお分かりいただけるでしょうか。





これは 2010 年から 2100 年までの将来の人口の変化を表しているものです。この青色の線が何も対策をとらなかった場合の将来の人口の推移です。そしてこの赤色の線が人口を最低 80 万人までに抑えようと対策を取った場合のグラフです。

こうしてみると 2080 年では対策を講じた場合と、何もしなかった場合との間に 36 万４千人もの差が生まれていることが分かります。（５）

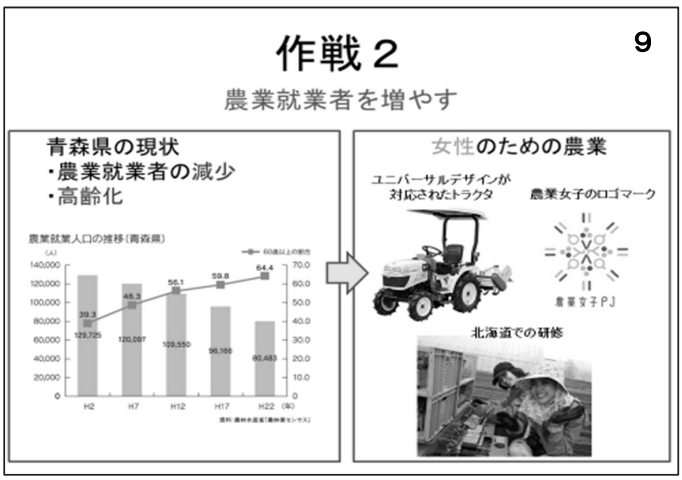
人口減少の大きな要因となっている若者の県外流出が多いことの原因としては、青森県の労働賃金が低いこと、若者向けのお店が少なくつまらないことなどが挙げられました。

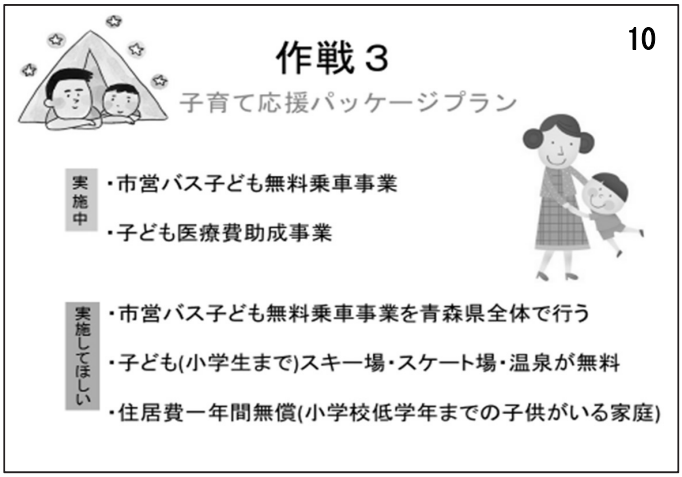
そこで私たちのクラスで高校卒業後県外へ進学就職するかどうかのアンケートを行いました。するとこのようになりました。進学就職するために青森県に残らない人が 60%、残る人が 40%という結果になりました。

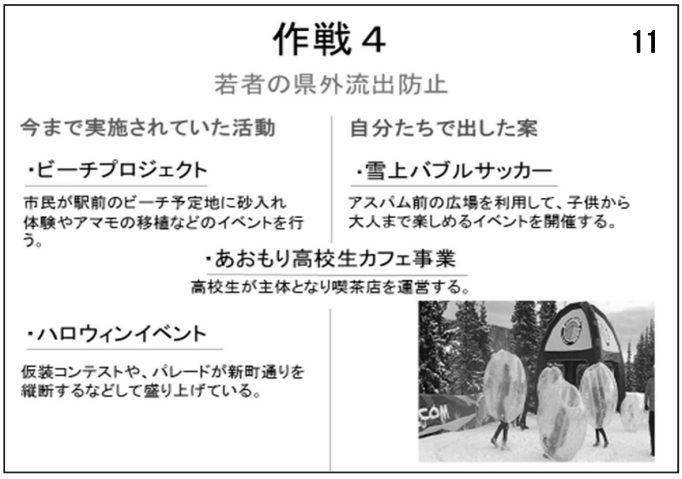
理由としては都会に憧れているから、若者向けのお店が少なくつまらないからなどが挙げられました。この結果から、半分以上の若者が県外への進学就職を希望しているようです。（６）

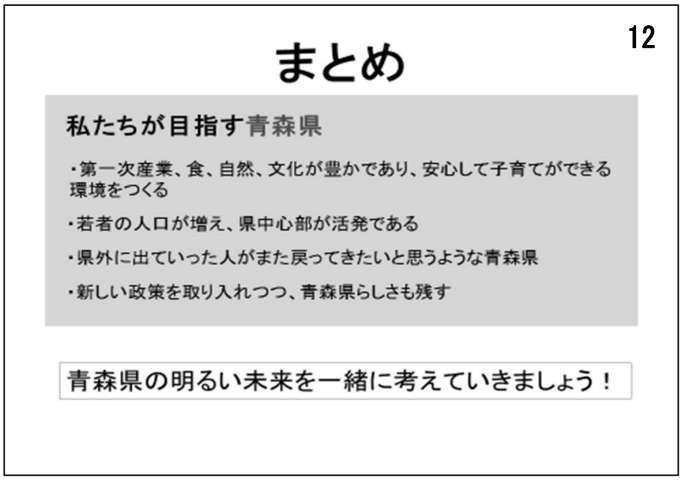
人口減少に歯止めをかけられないかと考えた私たちは４つの作戦を考えました。

作戦１「観光客を増やす」です。青森県には１年を通してたくさんの魅力があります。春は弘前公園や合浦公園を始めとするいろいろな場所で桜祭りが行われています。夏は青森、五所川原、弘前のねぶた、立ちねぶた、ねぷたがあり、青森ねぶた祭は最終日に海上運行をします。秋は八甲田山や白神山地などで見られる紅葉があります。八甲田山ではロープウェーに乗りながら絶景を見ることが出来ます。冬は鰺ヶ沢やモヤヒルズでスキーやスノーボード、盛運輸アリーナでスケートを楽しむことができます。他にも十和田湖で十和田湖冬物語というものが開催されます。（７）









さらに 2016 年９月、下北地域がジオパークに認定されました。ジオパークとは大地や地球「ジオ」、公園「パーク」を組み合わせた言葉で、大地の公園を意味し、大地がどのようにしてできたのかを学ぶことができます。下北は自然がとても豊かで、特に恐山、仏ヶ浦は大地の迫力が感じられる場所です。（７）

青森は冬に来る観光客が減少してきているため、私たちは冬の青森を巡る観光ツアーを考えました。まず十和田湖温泉スキー場でスキーやスノーボードを楽しんでもらいます。昼食は青森の郷土料理を食べてもらい、夕方には十和田湖へ行き、十和田湖冬物語というイベントに参加してもらいます。ここでは雪国ならではの絶景を見ることができます。その他にも冬の露天風呂に入って疲れを癒やしてもらいます。夕食は青森の海や山の幸を食べてもらいます。（８）

このように青森にはいろいろな魅力があります。ツアーを通して青森のいいところに触れて青森のことを少しでも知って好きになってもらい、観光客を増やしていきます。観光客が増えると青森県の経済も良くなると思うし、観光客がまた青森に来たいと思うことで、青森で暮らしてみようと思う人も出てくるのではないかと思いました。

次に作戦２の「農業就業者を増やす」です。青森県の農業就職人口の推移のグラフを見てください。こちらの青いグラフが 60 歳以上の割合を表した棒線グラフです。こちらの赤いグラフが農業就業者の減少を表したグラフです。このグラフによると、農業者の高齢化とともに人数も減り後継者がいないという問題が出てきています。このままでは食料自給率４位の青森県もこの順位を維持できないのではないでしょうか。（９）

そのために私たちが考えた案は女性のための農業です。なぜ女性なのかと思った人も多いと思いますが、意外に今の農業従事者のうちの４割は女性で、全国に 73 万人ほどいます。「農業女子」という言葉を聞いたことがある方もいると思いますが、今は昔と考え方が変わり、６次産業や農家民宿、農業レストラン等といった女性を必要とした経営の多角化が求められています。

そのため日本では、女性のためのユニバーサルデザインが対応されたトラクタや「農業女子プロジェクト」というホームページが作成されたりしていますが、青森県ではそのようなことはまだあまり浸透していません。そのため他県の例をもとに、「農業女子」の企画を増やしていくべきだと思います。

具体的な例としては北海道で企画されているように、女性の研修生を全国各地から受け入れるというものです。その企画では１年間の研修修了生のうちの３割近くが町内に残り、またその約半数は農業関連産業に従事という実績を誇っています。このように他県で実際に成功しているような企画を取り入れることも大切だと思います。女性をターゲットにすることで、今までに無かった企画に興味を持った女性が青森県に来るのではないでしょうか。（９）

次に作戦３です。作戦３は「子育て応援パッケージプラン」です。青森県に移住してきても慣れない環境で暮らすのには不安があるという人たちが多いと思います。特に高校生までの子どもがいる家庭ではたくさんのことにお金が掛かることでしょう。

そこで私たちは、そのような家庭を何かサポートできないかと考えました。調べてみると、現在青森市で実施しているのはカードがあれば小学生までの市営バスの利用を無料とする「市営バスこども無料乗車事業」、中学３年生までの医療費を無料とする「子ども医療費助成事業」がありました。他に実施したらいいプランを私たちで考えました。

現在青森市で行っている「市営バスこども無料乗車事業」と「子ども医療費助成事業」を青森県全体で行うこと、小学生までの子どものスキー場、スケート場、温泉を無料にすること。これは経営者側は一緒に行く大人が有料であるため大損することはありません。小学校低学年までの子どもがいる家庭の住居費を１年間無償にすること。これは元々青森にいなかった人たちが青森県で消費活動をすることになるので長い目で見れば損をすることはありません。(10)

他にも青森県にはアピールできるポイントがあります。それはここ数年間待機児童がゼロだということです。ここ数年間ゼロなのは青森県と新潟県だけです。現在東京には約８千人の待機児童がいます。都会で子育てに困っている家庭がより落ち着いて安心して暮らせる環境が青森にはあるのです。そして同時に青森県の人口増加にもつながります。このようなプランで家庭をサポートし、少しでも多くの家庭が青森県に移住しやすい環境を作っていけばいいと考えました。子育てに苦しむ都会の人々、人口減少に悩む青森県、この両方を解決する１つの提案です。

次に作戦４の「若者の県外流出防止」です。青森県は現在、毎年１万人以上の人口が減少し続けています。特に若い世代の県外流出が多く、このままでは将来の青森県を担う若者が少なくなってしまいます。

なぜこんなにも青森県から若者が出て行くのでしょうか。実際に私たちのクラスでアンケートをとって多かった意見が、都会に憧れているから、青森には学生や若者向けの店が少なくつまらないからというものでした。また県内の大学で学べることが少ないからと答える人がいました。

このような若者の県外流出を食い止めるために、今青森市やＮＰＯ法人が地域を活性化させるために行っている活動は、「ビーチプロジェクト」。これは市民が駅前のビーチ予定地に砂を入れる体験やアマモの移植などのイベントを行うものです。(11)

「あおもり高校生カフェ事業」。これは高校生が主体となり喫茶店を運営する活動です。「ハロウィンイベント」。仮装コンテストやパレードが新町通りを縦断するなどして盛り上げているイベントです。

その他に私たちが考えたことは、まず現在は活動が行われていない「あおもり高校生カフェ事業」の活動を行うことと、駅前やアスパム前の広場を利用して雪国ならではの雪を活かした「雪上バブルサッカー」を行うことです。青森駅前でこれらを行うことにより若者を呼び寄せられないかと考えています。(11)

青森県から県外へ進学就職する若者の割合は以前よりは減ってきていますが、それでも県外へ行く人が多いです。なぜ県外の大学へ行きたい人が多いのかというと、青森の大学では学べないことが他県の大学でなら学べることが多いからだと考えました。そこで県外へ進学する人を減らし、地元進学率を増やすために青森県の大学に無い学科を増やし学べる場を広げればいいのではないかと考えました。私たちはこのような学科があれば青森に残りたいと思うような学科を考えました。それは「地域活性化学科」です。

私たちのように自分達の住む地域をより良くしたいと思う高校生が行けるような学科です。内容としては大学生としてその地域を活性化させるためのイベントの運営や出店をします。そのイベントや店では高校生がボランティアとして参加できればいいと思います。またイベントの運営機関や店は大学生の就職先にもなります。小さな子どもからお年寄りまで楽しめるような場所を若者の視点から作ることで、全ての青森県民に楽しんでもらうことができると思います。参加する人もそして作る人も楽しい学科があれば若者も青森に残りたいと思い、県外への流出が少しでも防げるのではないでしょうか。

また今年度から青森県が行っている無利子の奨学金給付事業は、経済的に苦しい高校生がいる家庭にとってはとても助かるものだと思います。ぜひ継続してほしいと思います。

以上のような政策を行うことで県外へ出て行く若者を少しでも減らすことができると思います。

私たちが40代、50代になっても、今と変わらない青森県であってほしい。

私たちは今回の活動を通して、今まであまり考えてこなかった人口減少などの青森県が抱えている問題について考えるようになりました。

私たちが理想とする将来の青森県は

・第１次産業、食、自然、文化が豊かであり、安心して子育てができる環境を作る
・若者の人口が増え、県中心部が活発である
・県外に出て行った人がまた戻ってきたいと思うような青森県
・新しい政策を取り入れつつ、青森県らしさも残す

です。そのためには青森の現状から脱却しなくてはなりません。

青森県は既に人口減少対策として扱える対策を行っているようですが、今回私たちが発表した人口増加大作戦の中で少しでも参考にしていただけることがあれば幸いです。これからもぜひ青森県の明るい未来を一緒に考えていきましょう。(12)

【質　疑】

●田中（たなか） 満（みつる） 議員（民進党）

（田中議員）

正直に言うと、私もあなた方の年代だったら都会に行きたいなとたぶん思うと思います。私も高校を卒業して 18 年間、東京で生活してきました。帰ってきて 12 年になるのですが、都会に行ってもいいんです。30 歳前後に帰ってくるような、そんな魅力のある青森にしていかなければいけないなと私たちも考えています。そこで、皆さんから見て、もっと青森県に帰ってくるために必要だなと思うことがあったらお聞かせください。

（回答）

やはり県中心部、青森市で言えば青森駅周辺などでもっと活発に、先程私たちが発表したイベントのようなことなどが行われたらいいと思います。

（田中議員）

高校生の皆さんはボランティアに参加したりと、いろんな活動をしていると思います。各学校との連携、交流等もあると思います。そういうところで連携をして、「こんなのをやっていこう」というのを私たちはしっかりとバックアップしていきたいということがあるので、「やりたい」という思いだけではなく、「やりたいけれど、どうしたらできるのか」ということを、もう１ステップ、２ステップが青森を若者の街に変えていくスタートになるのではないかと思うので、皆さんにももう一歩踏み出してもらえたらなということを思います。

もう１つ、進学の学科が無いというお話が出ていました。地域活性化学科ですか、大変素晴らしいと思います。このところ人気のある大学がぽつぽつ各地方にも出てきていますが、ある意味特殊な学科というかですね、そこでしか学べないものに全国から集まってくる。そういう学科、全国から集まるような学科を作っていくというのもいい提案だなと今日聞かせていただきましたので、今後の議会にしっかりと活かしていきたいと思います。

都会に行きたい気持ちは全く同じだと思います。でもやはり今この青森を変えうる若者の魅力を発信できるのは皆さん達かなと思いますので、これからも頑張ってください。

●谷川（たにかわ） 政人（まさと）議員（自由民主党）

（谷川議員）

人口減少には、確かに社会的な減少、そして自然減少と様々な要因がありますが、皆さんからは青森県の魅力を発信して青森県の良さを広く伝えていくこと、そして農業従事者をしっかり増やして仕事を増やしていくこと、子育てに関してはしっかりと支援していく。そんな提案がなされています。こうした１つ１つの課題に対する対策というのは大切だと思っています。

そこで、皆さんの発表の中で非常に興味があったのは「農業女子」の企画をもっと増やしていくべきだということです。先程の発表で、農業従事者の４割は女性であり、もっと増やしていくべきだという提案をいただいたんですけれども、今日たまたま青森西高等学校の皆さんは全て女生徒さんです。

皆さん自身が農業に参画する思いがあるのかないのか。また農業をどのように考えているかお聞かせください。

（回答）

今のところ、この中で誰も農業に就きたいとは思っていないのですが、農業は男性がやるというイメージが強いと思うのですが、最近では、大きい土地が無くても簡単に、都会でも出来るような農業というのもあるそうです。女性も関われる農業、自分で作った食材で料理をしたりとか女性自身が楽しめるような農業のやり方をもっと提案していけば、女の人たちも皆やりたいと思うのではないかなと思います。

（谷川議員）

農業に従事していない、農業に関わりの無い皆さん、女性の立場だからこそ、この農業をどう考えるかということが、今後の女性の就農につながっていく１つのヒントになっていくのかと思っております。

農業は青森県の基幹産業ですので、今日皆さんからいただいた御意見を基にし尊重しながら、私自身も青森県の農業を延ばし、活性化させるために努力していきたいと思います。